



当院におけるイメグリミン処方時の工夫： より安全に，効果的に使用するために

西条中央病院 糖尿病内科 健康管理センター長

藤原正純

● 要旨

ミトコンドリアに作用する新しい機序により低血糖リスクが少ない2型糖尿病治療剤イメグリミンは，メトホルミン（BG：ビグアナイド薬）と骨格が類似しており，ビグアナイド製剤と併用の際は特に消化器症状が出現しやすい。今回，イメグリミン処方の際しての当院の工夫を紹介させて頂きたい。

キーワード：2型糖尿病，イメグリミン，ビグアナイド薬，消化器症状

1 はじめに

膵β細胞のインスリン分泌低下，肝臓や筋肉などでのインスリン抵抗性が進行する要因の一つとして，ミトコンドリアの機能異常が指摘されている。イメグリミンは，初めてのテトラヒドロトリアジン（グリミン）系の経口糖尿病薬で，これまでの薬剤とは全く作用機序の異なる製剤であり，NAMPT（NAD⁺合成酵素）遺伝子，ミトコンドリア呼吸鎖複合体への作用を介して，膵β細胞におけるグルコース濃度依存的なインスリン分泌を促す膵作用と，肝臓・骨格筋での糖代謝を改善する膵外作用（糖新生抑制・糖取り込み能改善）という2つの作用機序で血糖降下を示す。これらの作用にはミトコンドリアを介した各種作用が関係していると推定されている。これによりα-グルコシダーゼ阻害薬，チアゾリジン薬，ビグアナイド薬，DPP-4阻害薬，GLP-1受容体作動薬（注射，経口），SGLT2阻害薬の6製剤が低血糖リスクの少ない薬剤として処方可能な状況となっている。

イメグリミンの大雑把なイメージとしては，ビグアナイド製剤とインクレチン製剤を足した印象があるが，乳酸の代謝に関わる酵素を阻害しないため，

乳酸アシドーシスが起きにくい特徴がある。イメグリミン自体，メトホルミンと骨格が類似し，両者併用の際は特に消化器症状が生じやすいとされている。

そこで，当院に於けるイメグリミン処方時の工夫をご紹介します。

2 当院に於けるイメグリミン処方時の工夫

《少用量からの開始》

イメグリミンの1日用量は500 mg 4錠＝2000 mgであるが，当院ではビグアナイド薬使用の有無にかかわらず，500 mg 1錠から処方開始している。その後次回受診の際，嘔気，嘔吐，食欲低下，便秘，下痢などの消化器症状について慎重に問診し，問題がなければ，2錠に増量している。2錠から3錠，3錠から4錠の際も同様である。当院では一度に2錠以上増量することはほとんどなく，1錠増量するのに1～3カ月の期間を置いている。

《増量をめぐって》

逆に，増量で消化器症状が現れた場合は，患者自身の判断で減量するように指導している。例えば，2錠では無症状であっても，3錠へ増量した際に消化器症状が出現した際は，自分の判断で3錠から2

錠へ減量するような具合である。当院でも用法・用量通り、当初1日4錠2000mgで開始した症例もあったが、処方早々に消化器症状が出現し、結局患者が服用を納得せず中止した経験も複数例ある。また、消化器症状以外にも全身倦怠感も経験する。やはり臨床現場では少量で開始し、効果と安全性を確認しながら、また、患者自身の納得も確得しながら1錠ずつ徐々に増量する方が、患者にとってはより馴染みやすい薬剤となることを実感している。その結果、より安全に効果的に使用している状況である。

《細かな用量調節》

イメグリミンを徐々に増量する方法により、今まで処方してきたグリニド製剤やインスリンを少量ずつ減量し、離脱に成功することも多く経験する。少量ずつの増量調整だからこそ、より細目に低血糖を回避しながら、慎重にグリニド製剤、インスリンの減量も少量ずつ行う対応が可能と考える。低血糖リスクの少ない薬剤ならではの大きな利点と考える。イメグリミン1回1錠でも消化器症状が生じる場合でも、1回0.5錠へ減量することで、快適に糖の管理が可能となっている症例もある。より細かな調整が要求される場合、0.5錠ずつの調整もより安全

性が高い印象である。患者それぞれに合ったイメグリミンの至適用量を慎重に探っていくのは重要ではなかろうかと考えている。

なお、「錠剤が大きくて飲み難い」との訴えも多く、それにより0.5錠に分割して服用している症例もある。現場としてはこの点の今後の工夫を期待したい。



3 おわりに

本剤は、eGFRが45 mL/分/1.73 m²未満の腎機能障害患者（透析患者を含む）への投与は推奨されず、この点は今後の展開がまたれる。一方、令和3年9月に世界で初めて日本で発売されてからまだ2年しか経過しておらず、全くの新規薬剤であることから、実地医家としても患者にとっても期待と不安の両方があり、今後、長期データにおいて、想定外の事象が生じることも充分あり得る。作用、効果、副反応などについては、今後の中長期にわたる多くの研究、報告がこの薬剤の真価を評価するのに必須であると考えられる。

一医療機関のイメグリミン処方の際の工夫をご紹介した。

How to Prescribe Imeglimin to TYPE 2-Diabetes Patients in Our Hospital

Masazumi FUJIWARA

Department of Diabetology and Health Care Centre Administrator,
Saijo Central Hospital

Abstract

Imeglimin is similar structure to metformin but new type of oral medication for diabetes. To type2 diabetes patients taking metformin, add on Imeglimin therapy tends to occur digestive symptoms including nausea, vomiting, poor appetite, constipation, diarrhea and so on. In Our hospital, patients take Imeglimin step by step 500 mg (1 tablet) gradually for 1 to 3 months. When they have the above uncomfortable symptoms, they decrease Imeglimin dose by themselves to be better comfortable conditions. This methods in our hospital decreases the digestive symptoms of Imeglimin.

Key words: type 2 diabetes, imeglimin, biguanide, digestive symptoms
